

編集： 山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: [mickeyy@pc4.so-net.ne.jp](mailto:mickeyy@pc4.so-net.ne.jp) URL: <http://www.sanchai.net/>

## 誕生パーティーラッシュの夏



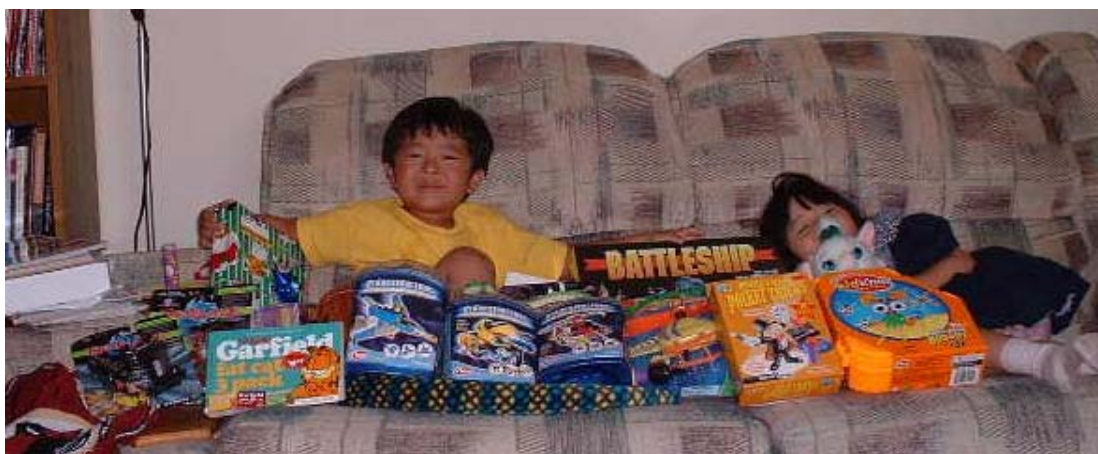
少々紹介が遅くなったが、去る5月20日に千智は4歳、6月18日に樹生が6歳の誕生日を迎えた。いずれもパパ不在の中での出産だったが、私はその頃自分が何をやっていたのかは、今も鮮明に覚えている。期待通り育ってくれているかとはもかく、2人とも元気でいてくれるのは何よりの幸せだ。

アメリカというところは、やたらと誕生パーティーを盛大にやろうとするらしい。樹生などなんだか友達から引っ張りだこで、昨秋からこの夏にかけて、セルゲイ（ボウリング場）、サイモン&コーリン（プール）、マシュー&アンソニー（自宅）、トーマス（軍専用のボウリング場）、

イアン（パーティー会場「チャッキー・チーズ」）等にお呼ばれした。社交慣れしていない親の方はすぐに焦るが、お呼びがかかるのは樹生の普段の行ないが好かれているからであるわけで、呼ばれればとにかく行かせるようにはしている。プレゼント購入はママの役目だ。最近は千智までお呼びがかかるケースがある。

いろいろな友達の誕生パーティーに呼ばれば、次は自分の番だと思うのは当然のことだ。千智は早くから「バレエの学校でやりたい」と言っていたが、いくら誕生日が1ヵ月しか変わらないといっても樹生までバレエのスタジオでやるわけにはいかない。千智の誕生パーティーを6月21日に決めた後、樹生をいつどこでやるかを考えることにした。

バレエのスタジオでやるのはなかなかの趣向だ。普段はバレエのレッスンをして下さる先生方が、会場の設営もパーティーの進行もしてくれる。まずは参加者全員が好きな衣装に着替えて、1時間ほどスタジオでレッスンを受ける。その後パーティー会場に移って、先ず子供達はピザを食べ、次に誕生ケーキがふるまわれる。そして最後はお待ちかねのプレゼント開封の時間である。千智のパーティーの準備では、ママが東奔西走し、招待状の作成・発送、ケーキの注文、グッディ・バッグ（参加してくれた子供達に配るお土産で、お菓子や小さなオモチャが入っている）の準備まで、全部1人でやってくれた。パパは直前に日本に出張していたこともあるけれど、非常に面目ない。千智のパーティーは、女の子達にはかなり好評で、バレエのレッスンを受ける姿がとても可愛らしかった。私が千智のバレエを見るのは今回が初めてだったのだが、様になっているのを見てとても驚いた。



千智のパーティーの翌日は、樹生がクラスの友達のパティーに呼ばれて「チャッキー・チーズ」というゲームセンター兼パーティー会場に行くことになっていた。樹生は自分の誕生パーティーは「チャッキー・チーズ」でやりたいと兼ねてから希望していたが、実際に行ってみると他のイベントも併催されていてどの子供が自分の子供のパーティーに呼ばれて来ているのか全然把握できない。あまり混雑しているのも辛いし、進行係を親がやらなければいけないのも嫌だったので、結局「チャッキー・チーズ」は断念し、アーリントン南部のベイリース・クロッシングにある「ファン・アンド・フレンズ」という、屋内遊園地とパーティー会場を一緒にしたような場所を代わりに予約した。

樹生の誕生パーティーは7月13日、こちら招待状発送とグッディ・バッグの準備はママがやってくれた。ケーキの準備を会場側に任せたのは少しだけ楽だったが、千智の時と違い、出席者が20人にも及び、グッディ・バッグの準備は大変だったかもしれない。こちらの会場は、スタッフが進行係を務めてくれなかったため、パパやママがつたない英語でホスト役の樹生をサポートせねばならなかった。勿論、樹生を含めて子供達は勝手にわかっているのだから、放っておいてもそれなりに楽しくやってくれていたように思う。プレゼントの山に埋もれた樹生君はご満悦だ。しかも、さすがに皆学校で流行っていて樹生が好きなものをよくわかっていて、「ベイブレード」と「ビアナクル」が多かった。まさに濡れ手に粟といった状態だ。(あのう、7月10日はパパの誕生日で、樹生君はパパへの誕生プレゼントで、自転車を補助輪抜きで乗れるようになると約束していたんだけど、あれどうなりました?)

かように、この夏、特にこの1ヵ月は、我が家は誕生パーティーに振り回されました。こんなに盛大に誕生パーティーをやることは、日本に帰ったらちょっと考えられないので、とにもかくにも子供達にこういった経験をさせただけでも価値はあると思っている。日本に帰ったらこうはならないので覚悟しておいて欲しい。

でも、実はこのトピックにはおまけが付いている。世界銀行でパパが所属するユニットでは、12人構成のうち、なんと5人が7月3日から10日までの間に誕生日が集中している。7月5日の週は、いきなり月曜朝の誕生パーティー(ケーキ2個、クッキー、コーヒー)で始まり、10日午後のスタッフ・ミーティングは、議事もそこそこにワインとケーキでまたまたお祝いであった。只今我がユニットには生粋のアメリカ人は2人しかいないが、さすがにここはアメリカのオフィスだけある。パーティーが好きなのだ。

### 第三子、名前を急かす周囲に焦る

ママのお腹の中の赤ちゃんは男の子らしい。ママが周囲にその話をする、「もう名前は考えたの?」と必ず聞かれるそう。中には割礼を受けさせることまで提案してくれる人もいるらしい。まああまり急かさずゆっくり見守って下さい。少しは考えていますが、考える時間が長すぎるとなかなかまとまらないものであります。





ペンシルベニア州ジョンズタウン  
ジョンズタウン・インクラインド・プレ  
インに乗ってご機嫌の子供達。ここ、普  
通、日本人観光客はあまり行かないだろ  
うなあ。でも、パパの故郷・岐阜の揖斐  
川上流の村とそっくり。詳しくは[サンチ  
ヤイ・ドット・ネット](#)にて

離任の日が近付いてくると、どうしても駆け込みの旅行がしたくなるのが心情というもの。ママはずっと「カナダに行きたい」と言い続けている。とり合えず、どこかの週末を使って、ナイアガラまで行くということで、7月最初のアメリカ独立記念日の週末を利用して、カナダ側のナイアガラ・フォールズという町まで3泊4日のドライブ旅行をした。片道7、8時間のかなりしんどいドライブである。

実家の近所にある床屋さんのご主人がナイアガラの滝を観光した話を高校時代に聞かされていたパパとしても、アメリカに通算4年近くも住んでいてナイアガラの滝を見たことがないのではちょっと悲しいし、子供達にも後で驚異のアメリカ大自然の象徴でもあるこの瀑布ぐらい経験させておいた方がいいと考え、喜んで行くことにした。往路と帰路にペンシルベニアでも有名な登坂ケーブルカー（インクラインド・プレイン）を2ヶ所で乗る企画をちゃっかり入れ込む下心がパパにはあった。

ナイアガラ瀑布は想像していた通りのスケールだ。いつもはカメラしか持って行かない我が家の旅行だが、今回はビデオカメラを持って行って正解だった。簡単にはカメラに納まらないほどの凄さだ。ナイアガラ川の川辺から船に乗って、滝のすぐそばまで行くことができるが、バケツをひっくり返したような水に打たれる。

泊まったホテルは最上階のレストランから滝を見下ろすことができる。私達がナイアガラ・フォールズに着いたのはアメリカ独立記念日で、そして金曜日だったこともあり、レストランからは、対岸の至るところで打ち上げられる独立記念日を祝う花火と、週末だけのイベントとして川に浮かんだ船から打ち上げられる花火とが重なって、とても得した気分になった。しかも、翌5日の夜もまたアメリカ側とナイアガラ川の2ヶ所で花火の競演があり、それは客室から部屋の照明を真っ暗にして観賞した。これにはパパもママも千智も大満足だったのだが、樹生はというと、ホテルのプールでの水遊びが実現して5日は昼寝もほどほどに遊びまくり、花火の時間には既におやすみであった。

陸路で国境を越える経験も初めてだった。カナダ側に入る時は少々緊張したが、家族全員分のパスポートを入国係官に渡して2、3の質問をされただけで、車から降りることもなくすんなり入国を果たした。カナダ側は速度標識がメートル表記になっていて、少し懐かしさにかられた。「9-11 同時多発テロ」みたいな事件があって、アメリカ側の入国審査もうるさいのかと思っていたら、これまた車に乗ったままの審査で、質問も何もされなかった。なんだか拍子抜けしてしまった。

本来なら6月最大のイベント、日本への出張を取り上げたいところなのだが、黙っていると誰も評価してくれない地味な仕事をやった話を紹介したい。

私が日本に出張に行っている間、ワシントン世銀本部ではスタッフ・エクスチェンジ・プログラム (SEP) 年次総会が3日間にわたって開催された。SEPは、私の派遣元のJICAも含め、100以上の民間企業、地方自治体、政府機関等と人事交流を中心としたパートナーシップを結んでいるが、その栄えある第1号は実は日本の経団連である。年次総会開催期間中、経団連には1つのセッションが割り当てられ、全体テーマに即した形でサブテーマを経団連側で独自に決めて、毎年パネルディスカッションを開催してきた。経団連事務局の方もお忙しいようで、毎年のサブテーマの設定や日本から参加される事務局の方と会員企業の代表の方々以外のパネラーの手配等はなかなか決まらず、SEPで受け入れてもらっている日本人職員がボランティアで協力してきたのが実情である。また、経団連は毎年この総会出席を機会に世銀との年次協議を希望してくるのだが、これはSEP総会とは全く別の話だ。

一昨年、昨年の年次総会では、ビジネス・パートナーシップ・グループ (BPG) にいらしたSさんが経団連ミッションの受入の全体日程を調整されていた。BPGはそもそもそういう業務内容なのだからこの受入業務はそれなりに説明がつくものだ。しかし、時限立法的組織だったBPGは昨年7月に解散し、Sさんご自身も12月に世銀を退官された。また、会員企業出身で経団連に対して同情があったMさんも、ご自身の世銀グループでの業務とは別に、ミッションのアテンドには相当の協力をされていたが、今年3月末に米州開発銀行に移られたので、直接的にミッションを支援することが難しくなった。

さて、今年の経団連ミッションはどうなるのだろうかといった時、SさんもMさんも世銀を去る時「当然山田さんでしょう」と言い残している。理由は、世銀が経団連と組んでカンボジアで進めようとしていた民活導入による産業振興が、JICAが実施中だったシアヌークビルの工業団地開発実施可能性調査と利害が若干衝突しており、世銀、JICA、経団連の三者の間で調整が必要だったため、対経団連という意味で若干の関わりがあったからだ。私はむしろJICAの肩を持っていたのだけれど。

私もSEPの日本人職員の1人だからSEPの総会に関連した経団連ミッションの後方支援は確かにすべきだと思っていた。でも、BPGがやっていた仕事を私の配属先が引き継いだわけでもなく、ミッションの年次協議の日程のアレンジまで何でやらなければいけないのかという心理的な抵抗があった。世銀東京事務所に自分の日本出張の日程打診をした際も、「経団連のお相手はどうなる」と釘を刺された。東京事務所は普段の経団連とのコミュニケーションでは前面に立てるが、ワシントンへのミッション渡航に当たっては世銀本部側で核になって日程調整とアテンドを引き受けてくれる職員が必要だ云々。でも、日本出張は自分の本来業務であるから避けるわけにもいかない。結局、来年度以降の対応については別途検討してもらおう (つまり単純に自分の後任への引継事項にしない) ことを条件に、今回の協議日程のアレンジは私が出張前に済ませ、ミッションには東京事務所から1人職員に同行してもらおうという形で対応することになった。

いわば、自分の出張の準備と裏日程でやって来る経団連ミッションの日程調整を同時平行で進めなければならないわけで、正直言って出張直前は相当に体がきつかった。ひどい時は夜中の3時近くまで残業していた日もある。単にアポ取ってお終いというわけじゃなくて、当然受け入れる側は「目的は何か、議題は何か」と聞いてくる。そこまで具体的な情報を経団連事務局から貰っていたわけではないので、自分の想像で説明して相手に準備してもらった。SEP総会の経団連セッションにしても、去年の経験からも「サクラ」を相当に動員しないと世銀最大の会議場「プレストン・オーディトリウム」に参加者もまばらという事態も起きかねない。自分で案内メールの原稿を作り、世銀の日本人職員全員に送付し、さらに外部の日本人のメーリング・リストにも案内メールを出した。自分がアテンドしないミッションの受入なのに、自分としてはできる限りのことをしたつもりである。

配属先の上司からは評価されない、地味な仕事である。経団連会員企業は、世銀が途上国で行なう貸

付プロジェクトの資機材調達の際のサプライヤーであり、いわば受注促進が経団連ミッションの目的であるが、私の配属先は逆にドナーから譲許性の高い信託基金を調達してくるのが仕事である。経団連のリーダーシップにより、会員企業が海外進出先において、コミュニティの一員として地域開発への参加が進むようであれば、それなりに我が配属先がこのミッション受入をハンドリングする意味はあるが、ミッション側の方ではそこまで目的と議題を整理し切れていなかったように思う。

来年のことを私が心配しても仕方がないことなのだが、誰かが整理しないといけないことだけは間違いない。例年と同じく、今年の場合も面談先で「ここでは自分は何を話したらいいのか」という質問がミッションの方から飛び出したらしい。また、経団連ミッションの1週間後に来た某日本の援助機関のミッションが、「我が社こそ日本の民間企業の意見集約してきた日本の代表」との発言をしたのを良い機会に、前週に経団連ミッションにも会っていた世銀側某高官が、それだったら経団連との整理をして欲しいとすかさず発言していた。ミッション内の目的・議題確認も他機関との横の調整も十分できていないこの類のミッションは受け入れる度に受入側のストレスがたまってゆく。前段で述べた通り、議題がそれなりにブラッシュ・アップされてくれば私の配属先が受け入れ担当する意味はある筈だが、それには逆に経団連側に対する事前の振り付けがきちんとされる必要もあると思う。さてさて来年はどうなりますことやら…

## 編集後記～山田家短信

- どうやら後任も決まり、私も10月15日の契約切れと同時に日本に帰れそうです。美澄は出産の準備のために、樹生と千智を連れて先に帰国しますが、その出発フライトも8月22日(金)で取れました。日本到着は23日です。樹生も千智も現在通っているウェストゲート託児センターのサマー・プログラムは7月いっぱい終了し、帰国に備えます。子供達は日本に帰るのは楽しみなようですが、こちらで仲良く遊んでいた友達、特に隣りのマリー、トーマスと本当に暫くの間は会えないということが理解できた時、どんな反応をするのでしょうか。8月前半は、アメリカ最後の家族旅行として、アリゾナ州グランドキャニオンとモニュメントバレーに行ってみます。(山田)

**パパの体重**

**86 kg**

**(7月15日現在)**